

【研究テーマ】

ユニバーサルデザインの視点を活かした持続可能な小中一貫教育

1 グループ校の概要

安東中（18学級,生徒602名,教職員48名）	安東小（26学級,児童813名,教職員45名）
城北小（21学級,児童601名,教職員44名）	竜南小（22学級,児童603名,教職員36名）

2 研究の目的

進学先が複数中学校である小学校を含む学区の3小学校と連携し、持続可能な小中一貫教育の在り方を研究する。

3 取組内容

1 UDの視点（視覚化・焦点化・共有化）を活かした小中一貫教育

- ①「めざす子どもの姿」（環境づくり・学びづくり・仲間づくり）を目的として明確に視覚化し、学区4校が、以下の子どもの姿をめざして11の具体的取組を実践。
 - ・環境づくり：生活や学習の基本的習慣が身に付いている子
 - ・学びづくり：「できる」「わかる」授業で、伝え合い高め合う子
 - ・仲間づくり：互いのよさを大切に、人とつながり共に生きる子
- ②4校共通「11の具体的取組」として取組を焦点化
 - ・更に各校が6項目程度を重点取組として選び、各校の実態に合わせて独自性をもって実践。取組内容や工夫を互いに共有し、自校の取組の参考とする。
- ③地域と学校、学校と学校をつなぐSDGsの取組を共有化
 - ・小中一貫交流コーナーを設置し、双方向で子どもの作品や授業の成果物を交流。
 - ・1月9日、静岡市SDGs発表会、12月2日、SDGsモニター会議等の取組を安東中学校生徒会が実施。SDGsを意識した生徒会の取組（安東児童館清掃活動、生徒会広報誌の地域掲示板への掲示）を小学校や地域に広めてSDGsの意識を共有化。

2 持続可能な小中一貫教育とするため「SDGsの17の目標」を共有して実践

- ・「4質の高い教育をみんなに・11住み続けられるまちづくりを、16平和・公正をすべての人に、17パートナーシップで目標を達成しよう」の4つの目標を安東中学区の目標に選定し、教職員・児童生徒が意識を共有し取組を実践。

3 「11の具体的取組」から各学校が重点取組を設定して評価を行う

- ・共通の取組と独自の取組を評価できる形式の評価表を作成し、評価活動を実践

4 考察（成果と課題）

「この形なら安東中学校区の小中一貫教育が持続可能である」ということが確認できた。複数中学校に進学する小学校を含むグループ校で、実践可能な小中一貫教育の在り方はこの形が最適である。この形とは、11の具体的取組を更に各校が重点取組として焦点化し、各学校のグランドデザインに位置付け、独自性を担保しながらも共通の子ども像をめざすという形である。この形で実践していく際にポイントとなることが3点ある。

- 1 **【視覚化】**めざす子どもの姿を小中一貫教育の目的として明確に視覚化
 - どの小学校も安東中学校もめざす子どもの姿を目的として明確に視覚化した。それにより、3分野で選択した重点取組が異なっても実態に合った工夫の中で、統一されためざすゴールに向かって取組を進めることができた。
 - 小中のつながり・系統性の点から「中学に進学させるのに、どんな力をつけたらいいのか3分野でめざす姿があるのは有難い。小中のつながりと合わせて、小学校の6年間のつながりや系統性を教員レベルで見直すことにつながっている」との小学校校長の声があった。
 - 今後更なる推進のため、各校のグランドデザインに小中一貫教育の重点取組を更に明確に位置付け、よりめざす姿に近づいていく。
- 2 **【焦点化】**教育課程を11の具体的な取組に、更に各校が重点取組（6項目程度）として焦点化
 - 各校が実態とその年度の必要性に合わせて重点取組を選択し実践するという形を、安東中学校区の軸としたことにより、その年の児童・生徒にふさわしい取組を年ごとに変えていける取組となった。実態と必要性に合わせて変えていけるため持続可能となる。他のグループ校でも、参考になる取り入れやすい形が提案できた。
 - 3中学校へ進学する小学校長から「複数中学に進学する小学校の思いや立場を理解してもらい有難い。どの中学に進学しても不利益がない小中一貫教育を構築できた」との声があがった。
 - 例として示された工夫や手立てを共有し、参考にしながら共通のめざす姿に向かって、更なる取組に深めていく。年度ごとに例として示された工夫や手立てを更新していく。
- 3 **【共有化】**UD・SDGsの意識を職員・生徒・児童・地域が共有化
 - 「だれもができる」というユニバーサルデザインの意識は「誰一人とり残さない」というSDGsの意識に繋がる。安東中生徒会がSDGsを意識した生徒会活動を展開し、3つの小学校と地域に広げていく。
 - 「複雑な学校構成の中で、11の取組により意思を統一していることがわかった。4校の先生方がより深い共有化の中で更に取組を深めてもらいたい。」との地域の声により応えるよう共有化を進め、更なる取組を推進する。

5 今後の方向性

各校のグランドデザインに小中一貫教育の重点取組を明確に位置付け、めざす姿に向けて更なる取組を推進する。児童・生徒の実態に合わせて、小中一貫教育構想を毎年更新する。

- 1 令和4年度は実態に合わせて、ネット依存対策講演会を4校合同の健全育成大会として、保護者・地域の方々を集め、学校・保護者・地域が課題意識を共有してネット依存対策に取り組む。
- 2 メディアとのつきあい方教育を学校保健委員会を中心に行い、スマホ・ゲーム・ネットリテラシー授業に取り組む。
- 3 各学校独自の工夫や方法を共有し参考にして、更に充実した取組となるよう活かす。